



交流影片

研究推進部長 丹生 憲一

丹 BAL 台湾では11月17日(火)に台南第一高級中学とオンライン交流を行います。

それに先駆けて11月10日に、それぞれが作った動画をYouTubeに「限定公開」しました。話題は「丹波の歴史」「日本の伝統芸能」「学校生活」「部活動」「応援歌(演奏)」「日本のアニメ」「日本のゲーム」「テーマパーク」「食文化」「日本のセレブ」「JK言葉」「たこ焼き」「駄菓子」「穂音」「日本の観光地」「兵庫の観光地」…と多種多様です。今回は、英語による交流を謳っていますが、動画を見ると、一生懸命英語で話している人、英語字幕を付けて日本語で紹介している人、BGMを流して写真や動画に英語字幕を付けている人…とこちらも様々でした。台南第一高級中学の動画を見ても、ドローンを駆使したプロのような動画あり、日本語を使っているものあり、中国語に英語(日本語)字幕あり…という様子です。どちらにとっても初めての経験ですが、高校生の皆が、スマホを使いこなしていて、動画編集ソフト、翻訳ソフトを上手く利用しているかよくわかりました。中には、翻訳のみならずナレーションもネイティブスピーカー(のロボット?…AI?)に任せている人もいます。同時に、著作権上の理由でアップロードした動画がブロックされ、あらためて「メディア・リテラシー」について勉強したという人もいたようです。

コロナの影響で海外に行けないことから、代替案として始まったオンライン交流ですが、やってみると新しいことが次々と発見されました。台南第一高級中学では授業にスマホを使っていて、今回のオンライン・ミーティングも、先方は各自のスマホが「会議室」になっています。本校でも、生徒全員がタブレットを持って授業を受けることになっていますが、1対1で海外の高校生と繋がる日もそう遠くないことでしょう。11月16日(月)12時40分試験的に治平高級中学とは昼休みのオンライン交流を始めました。

少し話が変わりますが、台南第一高級中学からマスク2100枚(生徒一人当たり3枚)が送ってもらえることになりました。(写真右下・校長室にて)交流の日の朝、オンラインで贈呈式を行い、皆さんの手元に配られると思いますので使ってください。そのマスクを着けて、オンライン交流に参加できるといいですね。



丹 BAL 1 11月11日(水)

「地域の魅力をおすそ分け」は12月2日に講座ごとの発表会を行います。現在、どのクラスでも発表に向けての準備が進められています。クラスによっては早くも発表練習をしているところもあります。この間に、放課後を利用してフィールドワークに出かけた班もあります。担当の先生方に話を伺うと「とにかく、みんな楽しそうにやっている」とのこと。十分な準備、説明もないまま、先生方にも外部の講師の方々にも無理ばかり言って始まった初の「丹 BAL」ですが、取り組んでいる生徒のみなさんが楽しんで活動しているならよしとしましょう!発表までにはまだ時間があります。よりよいものに仕上げてください。





「欲望の共有を目指して」～対話・会話の重要性～ 研究推進部 吉田 究

私の大好きな哲学者、苫野一徳氏（私より十ほど年下。熊本大学准教授。現象学の大家・竹田青嗣氏のお弟子さん。著作多数。私も図書館に何冊か入れたはず。中には確か「柏原高校さんへ」と書かれたサイン本も！）は「本質観取」「本質直感」と仰る。たとえ意見が対立しても、その根底にある「欲望」のレベルまで議論を突き詰めることができれば、ともに同じ「欲望」に向かって動くことができる、と。

4日（水）は、「拡大研究推進委員会」なる会議を持ちました。

私たち研究推進部は3人（丹生・土元・吉田）で活動しているのですが、上記委員会は、探究・総合を中心とした我々の部の活動を推進するためのもので、さらに、それを委員会以外の方々にも「拡大」して開催したということです。前号で書いた豊岡視察の報告などさせていただき、今後に向けて前向きで建設的な意見をいただくことができました。感謝！

そして、10日（火）の晩は、（表面にあります）来月2日の丹 BAL 1「おすそわけ」の外部講師さんたちと、オンラインで打ち合わせを行いました（外部講師さん7名がご参加）。19時から1時間超。短時間ではありましたが、非常に有意義な時間となりました。

これも表面にありますとおり、（新型コロナを言い訳にするつもりはありませんが、それでも！）前年度末以降、予定していたミーティングなどを行うことができず、試行錯誤しつつ進んでいるこの授業。外部講師の方々はもちろんのこと、授業担当の先生方にも大変ご迷惑をお掛けしていることと我々研究推進部も心苦しく思っております。この日の打ち合わせでも、講師さんたちから、学校側との連絡・意思疎通の不十分さを指摘する声があり、やはり申し訳なさが…。

7月、無鹿さん（春日町）での会合の様子をここに書かせていただいたことがありますが、そのときも今回も、外部講師さんたちの「熱」には、本当に驚かされます。それを適切に授業に反映し、生徒たちの学び、そして力に結び付けていくことが、我々研究推進部の仕事だと私は思っております。

丹波地域でどのような若者を育てたいか。どのような教育が理想的であるか。柏原高校はどうあるべきか。柏原高校で育てるべき生徒像とは。そして、丹 BAL ではどのような力を育てるのか。そんなことを、我々は話し合う必要がある。

「欲望」を共有できれば、意見の違いは解消（？）され、違いを乗り越えて大きな目標に向けて前進することができるはず。丹 BAL に関わる教員との意見交換、意思疎通を求める丹 BAL 講師陣からの声を受け、今後そのような場を設定していくのも我々研究推進部の仕事かと思えます。（拡大、拡大！）

来月2日の「おすそわけ」が充実した時間となるよう、まずは頑張りたいと思いますので、講師の皆さま、講座担当の先生方、よろしくお願いたします。そして、もちろん、生徒諸君にも！

